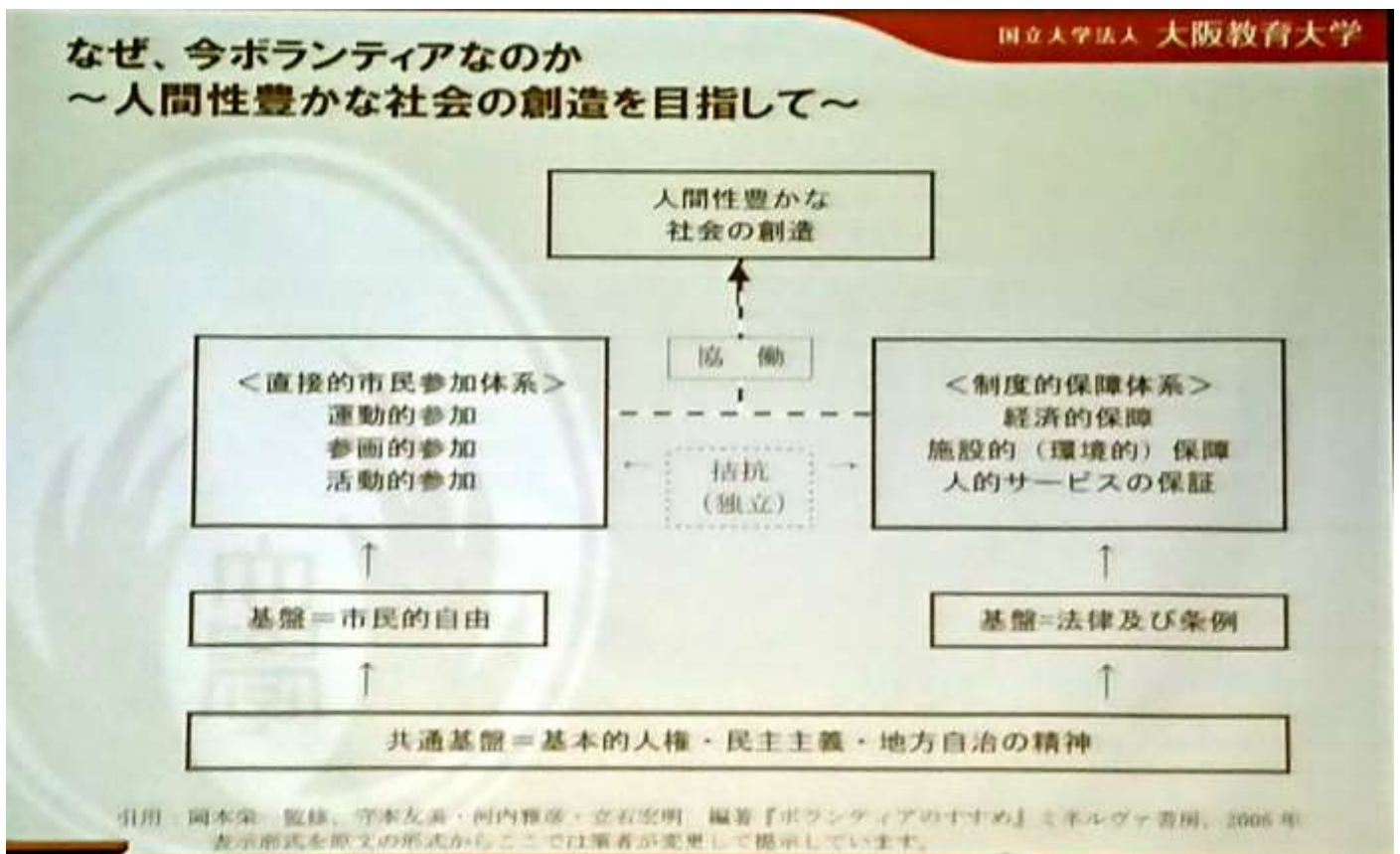
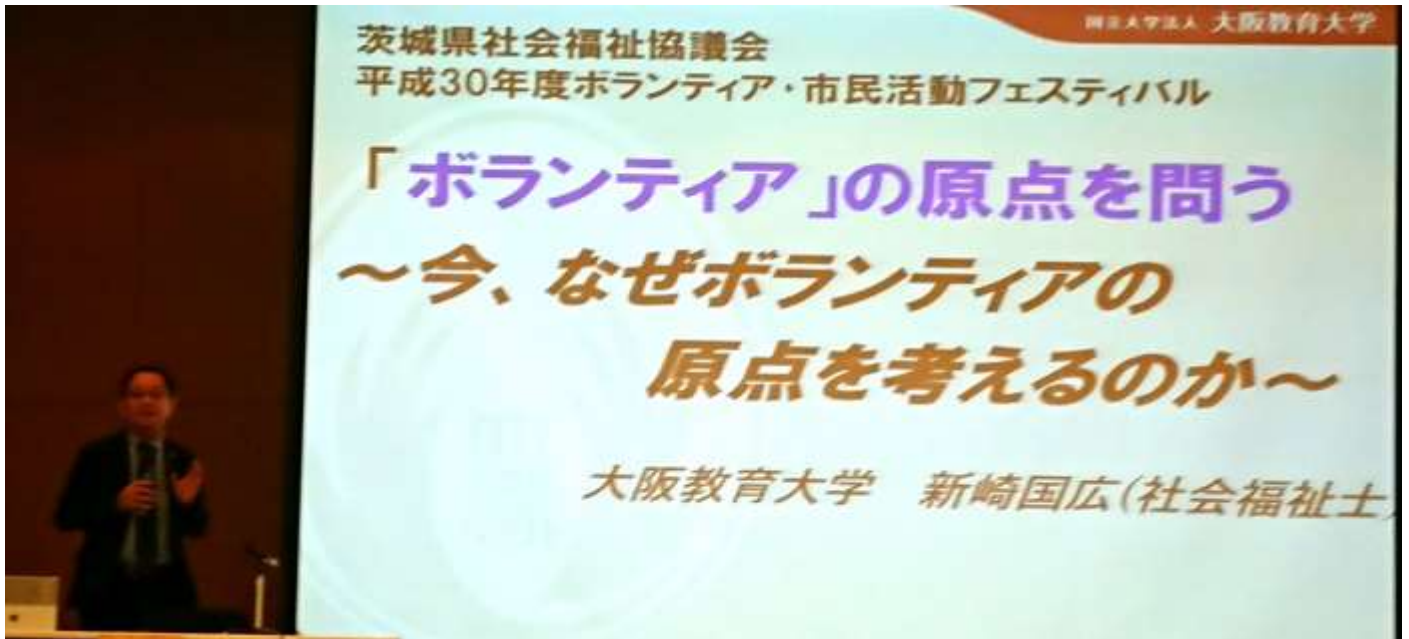


# 茨城県ボランティア・市民活動フェスティバル ～ボランティアの原点を問う～

## ★第一部 「今、なぜボランティアの原点を考えるのか」



# 社会的孤立 Social Isolation

家族からの孤立  
 近隣社会からの孤立  
 集団、組織からの孤立  
 情報からの孤立  
 制度・サービスからの孤立  
 社会的役割からの孤立



生きる意欲の  
 喪失  
 セルフネグレ  
 クト  
 (自暴自棄)

## お節介のすすめ！？

お節介とは、「**節度のある介(なかだち)**」

お節介さんとは

目配り・気配り・心配りができて、

他人の困りごとを放っておけない人

**お節介さん≡ボランティア精神あふれる人**

「介」には、「間にはいってなかだちをする。

両側から中のものをたすけ守る。」と

“**コーディネート**”という意味があります。



## 第二部 「地域の課題解決をめざすボランティア活動」

★第二部 シンポジウム 「地域の課題解決をめざすボランティア活動」

コーディネーター：茨城県ボランティアセンター運営委員会委員長

(常磐大学コミュニティ振興学部学部長) 池田幸也 氏

シンポジスト：大阪教育大学 教育学部協同学科教授 新崎 国広 氏

牛久市ボランティア・市民活動ネットワーク (ゆめまちネット) 代表 坂 弘毅 氏

ママひろばマザーズリー代表 西中 香代 氏

シンポジストのボランティア活動やボランティアに対する支援活動から得られた気づきを共有し、これからのボランティア活動について、参加者とともにあらためて考えるものです。



★コーディネーターの池田幸也氏から、シンポジストの皆さんに「エネルギーの源は何か？」と問われ、

・楽しいが Keyword、・ネットワークの前にフットワーク、・(仲間も元気) 悩み無し、と言われています。

また、課題について、筆者の受けとめは、

・市場のおじさん、お婆さんとのやり取りのような気軽に他愛のない話ができる (雰囲気や場)  
・ちょっとしたことが受け止められる社会  
・生きづらさを抱えている人に「目くばり・気くばり・心くばり」ができ、排除しない社会  
の実現に向け活動を続けたい、と力強く述べていたように思う。

★新崎国広先生は、行政に対し、ボランティアからの意見は苦情と思わず、提案と受け止めて頂きたい、と卓見を述べています。市と社協には、課題をたらい回しせず連携を期待。

★孤立化しやすい社会には、大きな力が必要。入口は、出会いと共感であるとして、「同じ人間だと思った時、人間は共感を得、役割を見いだせる。共同 (で活動するに) は信頼関係が必要だが、一定の距離感も大切。等々。

★80歳を超えてなお、氷雨について電車で駆けつけた坂茂さんの行動力こそがボラ魂と感嘆。